

青森明の星短期大学

2022 年度 自己点検・評価報告書

No.	点検部署	頁
1	保育専攻	P. 2
2	コミュニティ福祉専攻	P. 3
3	教育支援部	P. 4
4	学生支援部	P. 5
5	教育事業部	P. 6
6	入試広報センター	P. 7
7	キャリア支援センター	P. 8
8	地域連携センター	P. 9
9	総務課	P. 10
10	教務課	P. 11
11	学生課	P. 12
12	図書館	P. 13
13	明の星学園生涯学習センター	P. 14
14	青森明の星短期大学国際交流センター	P. 15

部署名	保育専攻
1. 重点事項	
①項目	<p>【専攻の重点課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒後支援の取り組み（昨年度末に上げた重点課題） <p>【2022 教学マネジメント計画における専攻の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5つの DP（共通 2+専攻 3）に対応した学修成果の査定・可視化 ・ 学外の学習成果発表機会の活用
②目標	<p>【専攻の重点課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育現場の意見聴取を踏まえ、卒後支援の計画を立て、実行する。 <p>【2022 教学マネジメント計画における専攻の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学修成果の査定、可視化により、教育の質の向上を図る。 ・ 学外での学修成果の発表を通して、保育実践力、社会人基礎力（前に踏み出す力など）の向上を図る。
③取り組み	<p>【専攻の重点課題】</p> <p>昨年度に実施した青森県内の保育現場への意見聴取アンケートの集計結果を公表し、卒後支援の課題を集約する（前期）。卒後支援の内容・方法等を検討し、実施の一步を踏み出す（後期）。</p> <p>また、今年度は、引き続き県内施設に対するアンケート調査を行う予定。</p> <p>【2022 教学マネジメント計画における専攻の課題】</p> <p>カリキュラムマップ・ツリーの点検を行い、5つの DP に対応した学修成果の査定方法を明示し、可視化の内容・方法について検討し改善を図る。</p> <p>学外での学修成果の発表の場として、子どもと表現（保育現場での発表会 11 月）、また地域での保育イベント等（新規）を計画し、実施する。</p>
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>青森県内の保育現場への意見聴取アンケートの集計については、集計及び分析を行い本学の研究紀要に発表し、専攻及びキャリア支援センターとの情報の共有を図り、具体的な卒後支援の内容・方法等について検討を行った。2 月～3 月にかけて、キャリア支援センター（専攻教員参加）にて、卒後 1 年目の職場訪問を抽出して行うこととなった。次年度に計画している現場との意見交換会においても、これらの集計・分析結果のフィードバックを行う予定である。</p> <p>カリキュラムマップ・ツリーの点検、学修成果の査定方法と可視化については、カリキュラム委員会にて全学的に見直し・検討を行い、次年度からディプロマサプリメントを実施する。</p> <p>学外での学修成果の場として「こどものためのあけたんおたのしみ会」を近隣の幼稚園等で 11 月に実施し、「あけたん保育の魅力発信！プロジェクト」にて地域でのイベントを 7 月、10 月、11 月、12 月に実施し、あけたん保育チャンネル（YouTube）の積極的な情報発信に努めた。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>引き続き地域でのイベントや本学での「あそびのひろば」を通し、「あけたん保育の魅力発信！プロジェクト」の活動を継続し、地域における学修成果の場を提供していく。また、本学が 60 周年を迎えることから、イベント等全てのチラシ等の媒体に「60 周年」を記載し PR していく。</p> <p>授業、実習、卒後支援、その他様々な面において、保育現場との連携を一層推進していく。</p>	

部署名	コミュニティ福祉専攻
1. 重点事項	
① 項目	<p>【介護福祉コース】 質の高い介護福祉士の養成</p> <p>【キャリアビジネスコース】 簿記教育の充実</p>
② 目標	<p>【介護福祉コース】 実践的介護技術習熟と介護福祉士試験の合格</p> <p>【キャリアビジネスコース】 会計サポートのウェブ学習システムを最大限に活用した日商簿記検定 3 級全員合格</p>
③ 取り組み	<p>【介護福祉コース】 より実践的な通常授業に加え、模擬試験、受験対策授業、個別補講にわたる万全の体制での指導</p> <p>【キャリアビジネスコース】 1 年前期からウェブ授業を主体とした反転学習の実施、進度の早い学生および遅延学生への適切な指導</p>
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>【介護福祉コース】より実践的学習のため、授業に専門職を 10 回招致した。外部模試を 2 回実施し、また、受験対策講座を 1 校時目に設定し、23 回実施した。授業欠席者は全員、担当教員の空き時間に個別補講を受けることとし、合計 51 回実施した。目に見える成果としては 3 月 24 日の合格発表によるが、教員は全員合格を目指して授業・補講・受験対策に全力を尽くした。一部学生から無理やりやらされているとの声があった。</p> <p>【キャリアビジネスコース】3 級合格者は 15 名中 7 名で 47% の合格率（2 月 20 日時点）であるが、これから 3 月にかけてほぼ全員合格する見込みである。課題としては、個別の質問や 2 級学習者に対するサポート体制が弱く、強化が必要である。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>【介護福祉コース】模擬試験・受験対策授業等は新年度も継続する。「無理やりやらせられている」という声については、学生自身が能動的に学習に取り組めるよう意識づけを工夫し、時間をかける。</p> <p>【キャリアビジネスコース】中・高学習指導要領に会計リテラシーが盛り込まれ、中学校で英検や漢検のように日商簿記初級を目指す生徒が出ている。本県でも青森、三沢両市教委が日商振と連携し来年度から会計教育をスタートさせる。これにより、日商振のウェブ授業を中高で学んだ生徒が、県内大学進学を考えた時、本学が唯一、日商振ウェブ授業を継続できる大学となる。そこで、次の 2 つを目標とする。①3 級、2 級とも 100% 合格：学習システムがあるだけでなく、更なる成果を出す。このため、特に、自学自習状態であった 2 級学習者に外部講師として税理士に来ていただくほか、毎週土曜日に公認会計士による講習と模試を実施する。②大がかりな PR：CB コース 5 周年記念行事をはじめとし、認知度を高める。</p>	

部署名	教育支援部
1. 重点事項	
①項目	①アクティブ・ラーニング型の授業の充実 ②学修成果の把握と可視化
②目標	①DPの1つであるコミュニケーション力の習得に向けて、アクティブ・ラーニング型の授業の充実を図る。 ②複数の情報を組み合わせて、多角的に学修成果の可視化をする。
③取り組み	①教育事業部や情報委員会と連携し、全教職員の授業スキルの底上げを図るために、共同でFD 研修等を実施する。 ②外部の調査を導入し、学修成果の可視化を図る。
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>①授業改善計画の報告をもとに、授業に取り入れたアクティブ・ラーニングの技法について集計したところ、9 割の授業でディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れた授業を実施されている。</p> <p>②学修成果の把握と可視化については、10 の DP の観点全体を 100 として、授業ごとに観点の重み付けをし、それぞれのスコアを学期ごとに学習成果としてレーダーチャートに示し、入学から卒業まで学修成果を可視化できる様式をカリキュラム委員会で作成した。</p> <p>③全学生を対象に、PROG テストを実施し、学生への説明会を実施した。また、FD 研修で教員向けに PROG テストの結果について報告した。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>「何を学び、身に付けることができたのか」という点に着目し、教育課程の編成において、学位を与える課程全体としてのカリキュラム全体の構成や、学修者の知的習熟過程等を考慮し、単に個々の教員が教えたい内容ではなく、学修者自らが学んで身に付けたことを社会に対し説明し納得が得られる体系的な内容となるよう、「学修者目線」で教育支援に取り組む予定である。</p> <p>以下、実施における重点取組事項とする。</p> <p>①2023 年度教学マネジメント実施計画の作成と運営管理 DP 達成に向け、体系化した実施計画を示し組織的にマネジメントサイクルを回す。</p> <p>②IR による情報の収集・活用</p> <p>③初年次教育の充実に向けた共通基礎科目の見直し</p>	

部署名	学生支援部
1. 重点事項	
①項目	・学校生活における学生の満足度の向上
②目標	・学友会活動の運営 ・学内環境の整備
③取り組み	・コロナ禍でも学友会行事の実施やサークル活動の維持が図れるように、学友会活動を支援していく。 ・短期大学生調査や「みんなの声」箱の投書をもとに、学生がどのようなことで困っており、どのような改善が必要であるのか、またどの部署でこのことを検討すべきかを明確にしていく。
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>・コロナ禍において体育祭や文化祭は、中止となったが、文化祭の代替えとしての体育祭は、学友会執行委員が積極的に運営を行い、教員の手を煩わせることなく、成功を収めることができた。またクリスマスの集いに向けて新しくツリーを購入して学生玄関の前に飾ったが、学生からの評判はとても良いものであった。集い自体は天候上の理由で下北の学生は参加することはできなかったが、厳かな雰囲気でも臨むことができ、下北の学生は下北キャンパス内でレクリエーションを実行することができた。</p> <p>・調査やアンケートの結果を各部署や全体に周知することはできたが、アンケートであった学生の意見をすべて取り入れて改善するには至らなかった。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>1. 課外活動の活性化におけるキャンパスライフの充実 学友会による自治活動を支援し行事等を活性化する。また外部から依頼されたボランティア活動を学生に紹介、斡旋する。</p> <p>2. 学生アメニティの向上を目指した各種支援 アンケート調査による学生生活の実態把握に努めるとともに、学生の健康管理、安全教育、奨学金の説明、各種相談対応、環境整備等を円滑に行う。</p>	

部署名	教育事業部
1. 重点事項	
①項目	①高大連携事業について ②学内FD・SDについて ③共同FDについて
②目標	①連携校との関わりについて確認する ②FD・SDの内容等含め検討する ③共同FDの開催（本学担当校）
③取り組み	①相互に交流できる機会を模索する ②事業内容も含め内容を再考する ③共同FDを成功させる
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>①：高大連携の事業はコロナ禍のため、連携校との事業運営はあまり出来なかった。しかし、連携校と連絡を密に取りながら、次年度に向けて事業の企画・運営の構築に取り組むことができた。</p> <p>②：本年度は合同FD・SD研修とし、本学の教育理念や教育活動の方向性等についての意見交換を行った。全教職員が参加し、忌憚のない意見が交わされ、有意義な研修となった。</p> <p>③：本学と青森中央短期大学の共同研修として実施した。本学は担当校として講師や他大学担当者と研修内容の検討を行い、ZOOMにて開催した。研修内容は「IRの現状と活用例」で参加者から好評であった。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>①：今年度の状況を踏まえ、高大連携事業が高校生にとって、学びの機会となるように努める。次年度は、本学と連携校との情報交換を頻繁にする。</p> <p>②③：教育力・仕事力向上に向けたFD・SD研修の実施-学内でテーマを募集するなど、課題を踏まえた効果的な研修をする。</p>	

部署名	入試広報センター
1. 重点事項	
①項目	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集 ・広報 ・入試
②目標	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的な募集活動を行い、確実な定員を確保する。 ・SNS 等多様なメディアを活用し、学生の意見も取り入れながら広報活動を展開する。 ・アドミッションポリシーに沿った入試を適切に実施する。
③取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各専攻・コースの「売り」を明確にする。 ・各種アンケートや報告書等をもとに、OC や高校訪問の効果を検証する。 ・各専攻・コースと協働し、メディア露出を図る。 ・広報に関して、より高校生に近い目線での発信ができるよう学生広報グループを結成し、SNS での発信を活発に行う。 ・アドミッションポリシーに基づいた入試の実施になっているか、実施前の確認及び実施後の振り返りを行う。
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<ul style="list-style-type: none"> ・定員充足率は今年度より低い数値である。 ・学生広報グループの始動や専攻との連携などもあり、SNS 等で活発に情報発信することができた。ただ、発信内容に偏りがあり、取り組み自体が難しい時期もあるかと思うが、それぞれの専攻・コースの取り組みをメディア・SNS 等でさらに発信していく必要がある。 ・入試の実施についてはアドミッションポリシーに沿って実施できたと考えている。引き続き、適正な入試が行われているか検討し、改善が必要な場合は対応していく。 	
3. 次年度の取り組み予定	
<ul style="list-style-type: none"> ・OC 参加者増に向けた効果的な広報や高校訪問を実施する。また OC 以外で本学を知る機会を増やすため高大連携なども含め、他部署と連携して広報活動を進めていく。 ・OC の実施に関して、より気軽に参加できるようなイベント感を出す工夫及び体験授業等も含め内容の変更を検討する。 ・引き続き SNS 等多様なメディアを活用した積極的な広報活動を行っていく。 	

部署名	キャリア支援センター
1. 重点事項	
① 項目	授業「キャリアサポートⅡ」（通年）を中心に就職活動のきめ細やかなサポートを行う
②目標	就職率の向上、卒業生のアンケートによる進路満足度の向上をはかる
③取り組み	センター・チューター間の情報共有を深める、企業説明会などの開催
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア支援ハンドブック」の改訂版を製作した。 ・「採用先における卒業生に関するアンケート調査」のほか、「卒業生（卒業後3年）のキャリアに関する意識調査」も実施し、結果（概要）をホームページ公開した。 ・職場訪問（就職先での聞き取り調査）を実施している。 	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>1. 適切な進路選択と内定獲得に向けた支援</p> <p>学生に対する随時の面談や相談対応等を行い、自己の進路を適切に選択・決定できるよう助言するとともに、チューターと情報共有し支援する。</p> <p>説明会・相談会、面接指導等を計画的に実施することにより、学生が積極的に就職活動を展開し内定を獲得できるよう支援する。</p> <p>2. 関連情報の活用</p> <p>学生に対し求人票等の資料や情報を効率的に提供し、事後支援等も適切に行う。</p>	

部署名	地域連携センター
1. 重点事項	
① 項目	<p>1 地域連携センター事業の精選</p> <p>① 中泊町との連携</p> <p>② むつ市との連携</p> <p>③ 青森市との連携</p> <p>④ 青森県消費者協会との連携</p> <p>2 地域貢献・ボランティア活動</p> <p>① 港町ねぶたへ祭ボランティア</p> <p>② 浪打銀座商店会祭ボランティア（夏・秋）</p> <p>③ 県観光連盟事業ボランティア</p> <p>3 産学連携</p> <p>① 青森創生人材育成・定着推進協議会</p> <p>② 青森地域産学連携</p> <p>4 その他</p>
③ 目標	<p>1 地域に開かれた大学を目指し、積極的に多様な関係機関との連携に努める。</p> <p>2 学生の活躍する場の設定に努める。</p> <p>3 学内の取り組みに対する情報共有に努める。</p>
④ 取り組み	<p>1 多様な関係機関との情報共有に努める。</p> <p>2 学生の活躍をマスコミ等で取り上げてもらう。</p> <p>3 取り組みに関しての効果的精選に努める。</p>
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>1 今年度は中泊町との連携を深化させるねらいから再度協定を締結した。これまでの小学生に向けた英語出前授業等に加え、高齢者福祉に対するアプローチを検討したが、新型コロナ禍による難しさから実現できなかった。</p> <p>新たな取り組みとして、むつキャンパス祭に参加した。学生実行委員会が中心となり各大学の特色あるステージ発表につながった。また、ブースによる各大学PRを行った。</p> <p>2 SNS を活用し積極的に発信した。コロナ禍により外部との連携が難しい状況であったが、学生の活動内容等、タイムリーな発信につながった。</p> <p>3 地域ボランティア等、計画するも新型コロナ禍により実施できなかった。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>1 本学における教育研究成果を適切に社会に還元し、地域から愛され、信頼される大学を目指す。さらに、各専攻における特色ある取り組みを統括し、発信できるようにする。</p> <p>2 教育活動の柱である「地域社会に貢献できる人材の育成」に向けて、学生の学内外における多様で柔軟な学びの場を確保する。</p> <p>3 地域住民に「いつでも、だれでも、どこでも」学べる生涯学習の場を提供する。</p>	

部署名	総務課
1. 重点事項	
①項目	<ul style="list-style-type: none"> ・管理業務 ・施設管理 ・会計業務
②目標	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤簿を変更して2年目になることから、出勤簿管理のマニュアルを作成する。 ・安全面を考えた老朽化部分の修理や、新型コロナウイルスに対応した除菌清掃等の徹底 ・正確な会計処理を行う
③取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・時間管理の疑問点など就業規則等を調べながら、解決しまとめる。 ・ジムナーズの雨漏り及びボイラー修理を行う ・毎日の除菌清掃の継続 ・伝票・元帳等の確認の徹底
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<ul style="list-style-type: none"> ・出勤簿管理については時間管理の疑問点等を調べ、出勤簿管理マニュアルの作成を行った。今後の業務の引き継ぎ等に役立てたい。 ・今年度の取組としていたジムナーズの雨漏りとボイラーの修理は2022年5月に終了した。また新型コロナウイルスに対応した毎日の除菌清掃も徹底して行い継続中である。 ・正確な会計処理に関しては、日々の会計処理の正確さを確認しつつ、毎月法人から送付される総勘定元帳の確認も徹底して行った。 	
3. 次年度の取り組み予定	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の目標は概ね達成されたが、引き続き安全面を考えた老朽化部分の修理と、除菌清掃等を継続したい。 ・正確で迅速な会計処理を実践していきたい。 ・学内外の美化整備として花壇整備に取り組みたい。 	

部署名	教務課
1. 重点事項	
① 項目	<ul style="list-style-type: none"> 1. 履修等管理 2. 授業対応 3. 証明書発行管理
② 目標	<ul style="list-style-type: none"> 1. 履修登録作業の迅速化とチェック体制の徹底強化を図り、履修登録確定を例年より早める。 2. 授業から試験までの学事暦を遂行する。 3. 卒業生の証明書発行に伴う事務処理の円滑化。
③ 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 1. 履修登録に伴う事務処理作業を分担し、迅速に行う。また、教育支援部と連携を図り、履修登録確定までの一連の流れを段取り良く行う。 2. コロナ禍などあらゆる事態に速やかに対応できるように各部署との連携を保ち、情報の共有化を図る。 3. 卒業生向けに「証明書の発行について」本学のホームページに周知し、円滑に事務処理できるよう取り組む。
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<ul style="list-style-type: none"> 1. 事務処理作業を分担した結果、迅速に履修登録作業を行うことが出来た。 2. 各専攻、教育支援部、下北キャンパスなど各部署と連携を図りながら、授業から試験期間までの学事暦を無事に遂行することが出来た。 3. 本学のホームページに「証明書の発行について」を周知し、卒業生からの証明書申込み方法をホームページの「証明書申込フォーム」からも申込みすることが出来るようにした結果、昨年度より円滑に事務処理することが出来た。 	
3. 次年度の取り組み予定	
<ul style="list-style-type: none"> 1. 履修登録に伴う事務処理作業を段取り良く迅速に行い、学生の履修登録漏れがないように学生の履修登録状況の確認作業を必ず行う。 2. 青森・下北両キャンパスにおいて同一内容の教育活動が行えるよう、各部署と連携を図りながら、特に下北キャンパスとの情報共有に努める。 	

部署名	学生課
1. 重点事項	
①項目	奨学金事務作業 授業料等減免費交付金事務作業 日常的な学生支援
②目標	学生への適切な連絡や指導 掲示による連絡が中心となっているので、学生の見落としが無いようにコミュニケーションを通し、学生と話しやすい環境づくりに務める。
③取り組み	窓口での個別対応の他にチューター等からの連絡も取り入れる 下北キャンパス生と直接連絡する機会が限られるため、電話・メール・郵送も取り入れる。
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金事務作業において、オリエンテーション期間から学生支援機構奨学金の手続について説明会を開き対応してきた。 ・その他の奨学金についても掲示板による通知の他に、チューターや専攻の先生方への協力を仰ぎ、連絡が滞らないよう手を尽くした。 ・学生支援機構奨学金、聖母被昇天修道会奨学金については、特に問題なく学生への通知、申請・手続きが行われた ・生命保険協会の給付型奨学金については、保育専攻からは申請者が出たが、介護福祉コースからの申請者が無く、生命保険協会でも次年度以降の給付対象校から外すことも検討したが、次年度の申請状況をもって決定するとの留保をいただいた。 ・授業料減免制度については、対象となる学生が制度自体について情報を持っていないケースが見受けられ、学生課から呼び出しをかけ手続きを促すこともあった。情報提供の方法については掲示や連絡以外にも何らかの検討が必要である。 ・日常的な学生支援の一環として、保健室の整備と女子トイレに生理用品を常備したが、トイレの生理用品が頻繁に無くなることから引換券をおく方法に変更した。利用状況からかつようされているようだ。 ・下北キャンパス生との連絡については、下北キャンパス側の協力もあり問題なく行われた。 	
3. 次年度の取り組み予定	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、障がい学生支援に関する基本方針が定められたことから障がいのある学生の支援や学生の相談状況について状況を把握し、対応を検討していく。 ・奨学金等に限らず、学生への連絡方法について引き続き検討していく。 	

部署名	図書館
1. 重点事項	
① 項目	図書館利用
② 目標	図書館利用者の増加
③ 取り組み	① 読書会の開催 ② 図書貸し出しカードの活用 (貸し出しカードに対して図書カードの贈呈・上限有)
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>図書利用者は、ほぼ横ばいであった。引き続き学生へ図書館利用を周知する必要がある。</p> <p>実施実績としては、ブックハンティング、ポップ掲示、読書会である。この3事業は学生からは好評を得ることができ、継続希望も出されている。今後は開催形態及び実施回数増加について検討する予定である。</p> <p>当初予定していた図書カードの活用は、詳細な事業計画作成ができなかったため実施には至らなかった。再度検討が必要である。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>「図書館利用者の増加」</p> ① ブックハンティングの開催 ② ポップコンテスト ③ 読書会の開催	

部署名	明の星学園生涯学習センター
1. 重点事項	
①項目	<ul style="list-style-type: none"> ・センター講座 ・教育カウンセラー養成講座 ・介護福祉士実務者研修
②目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の方針を受けて、感染症対策をしながら実施できる講座を検討する。 ・教育カウンセラー養成講座の周知と滞りのない運営に努める。 ・介護福祉士実務者研修の滞りのない運営に努める。
③取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の方針を受けて、地域連携センター等の部署と連携し、実施可能な講座について検討する。 ・県内の小・中・高等学校へのパンフレットの送付、機会を捉えての周知を行い、定員の確保と、滞りのない運営を心がける。 ・今年度は、5人の希望者がおり、研修がスムーズに進むよう心がける。
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育カウンセラー養成講座と介護福祉士実務者研修は、予定通り実施できた。 ・本学教員の協力や地域連携センターとの連携、青森市産官学連携プラットフォーム事業との連携で、実施することができた。保育専攻関係講座1回、介護福祉コース関係講座1回、外部講師招聘講座1回、歌の講座3回を開催した。 ・様々な講座の周知は、HPへの掲載、パンフレットの送付や配付、関係各所への訪問時の配付など、適宜おこなわれ定員の確保は、ほぼ達成できた。 ・感染対策等も含め、各講座は、滞りなく実施できた。 	
3. 次年度の取り組み予定	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育カウンセラー養成講座 ・介護福祉士実務者研修 ・センター講座 <ul style="list-style-type: none"> 学内教員の講座2回程度（各専攻に実施を依頼予定） あそびのひろば 3回（保育専攻主担当） 歌の講座（前期、後期各8回） 外部講師招聘講座1回 ・参加申込やアンケートにQRコードを活用する。 	

部署名	国際交流センター
1. 重点事項	
①項目	<p>①各種留学・研修プログラムの周知及び実施</p> <p>②青森・長春教育学術文化交流協会（青森・長春会）の事業の活性化</p>
②目標	<p>①米国ハワイ州の協定校であるカピオラニ・コミュニティ・カレッジ（KCC）とのダブルデグリープログラム（1+1プログラム）及び短期留学プログラムの周知を図るとともに希望者に対しては、留学内容、諸経費、渡航手続き等の説明を丁寧に行い、全面的なサポートを行う。</p> <p>②コロナ禍での留学生支援の取組を含めた活動内容や特別寄稿文の掲載等による魅力ある広報紙（第21号）作りを目指す。</p> <p>②奨学金支給対象中国人学生を厳正に選考する。</p>
③取り組み	<p>①新型コロナウイルスの状況を見ながら、各種留学の周知、募集、サポート等を計画的に行う。</p> <p>①希望者に対しては、KCCでの長期・短期留学についての各種情報（学費、履修科目、滞在先等）を時間に余裕を持って、わかりやすく説明する。</p> <p>②コロナ禍における留学生支援を弾力的に検討・実施する。</p> <p>②留学生支援や日中友好50周年等に関する寄稿文を掲載し、全会員及び関係部署等に送付する。</p> <p>②奨学金支給対象の学生を複数の留学生の中から1名選考するよう見直す。</p>
2. 自己点検・評価（取り組み状況/目標の達成度）	
<p>①今年度も新型コロナウイルスの影響により、すべての留学・研修プログラムが中止となった。各種留学の中止については、決定された時点で全学生に対して、口頭・掲示で周知した。</p> <p>②今年度も緊急食料支援として、青森市内の大学に通う全ての留学生に食料品を贈呈した。</p> <p>②広報紙には、日中友好50周年、食料支援に関する寄稿文等を掲載・発行し、本協会の全会員及び関連部署等に送付した。</p> <p>②今年度は、1名の中国人留学生の応募しかなかったが、面接により厳正に選考し、奨学金を支給した。</p>	
3. 次年度の取り組み予定	
<p>①各種留学を実施する場合は、長期・短期留学の周知・募集、サポート等を丁寧に、わかりやすく行う。</p> <p>①希望者に対しては、各種留学についての情報を時間に余裕を持って、わかりやすく説明する。</p> <p>②新型コロナウイルスの影響により、困難な留学生活を送っている学生に対する支援を弾力的に検討・実施する。</p> <p>②奨学金支給対象の学生を各大学から1名ずつ推薦してもらい、複数の対象者の中から1名を面接により厳正に選考する。</p>	